テーマ	ロシア語オリジナル書誌作成のスキル
インタビュー先	国立大学A
日時	2015年9月15日　14：10～16：40
インタビュイー	Aさん（課長クラス）、Bさん（係長クラス）、Cさん（係員クラス）
インタビュアー	木下、南山、松尾

調査名	質問紙番号	質問内容	回答	話し手	カテゴリ	メモ
言語Ⅰ	１－⑤	目録業務外の担当	担当係が分掌する業務としては目録業務のみである。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	１－⑤	目録業務外の担当	常勤は各種WGにも参加している。内容は学生協働、企画展示などで、係の業務を超えたもの。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	2－①	遡及入力	遡及入力は終わっていない。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	2－②	遡及入力	目録がとられていない資産扱いの資料がデータ上で18万冊残っている。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	2－②	遡及入力	研究室のものなど、資産データのみ残存している。目録をとるのが望ましいとされている	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	2－②	遡及入力	遡及は5年ごとに計画して6期目。進め方は、部局ごとに現物から入力を行っている。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	2－②	遡及入力	(未遡及資料の特性は)→　ちょっとわかりにくい。原簿を見れば分かるかも。古いものが多い。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	2－④	カレントの目録業務	(業務の担当は）本館・分館・15ある部局ごとで担当を分ける。言語は問わない。冊数で分けている。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	2－④	カレントの目録業務	常勤・非常勤で部局の切り分けなどはしていない。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	2－⑤	ローカルのみの書誌作成	原則としてローカルのみでの修正・作成は行わない。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	2－⑧	書誌調整依頼時の問題点	事前調査・依頼文の作成・回答までの時間がかかる。貸し出し中など確認がとれないなどの理由。だいたいは３－４日で回答が返るが、１ヶ月以上かかるときもある。常勤の人ひとりしかなく、長期休みなどになるとどうしていいか分からないなどの返事だったりする。	Bさん	書誌調整	
言語Ⅰ	2－⑧	書誌調整依頼時の問題点	解釈の違いなどで長引くときは、NIIに調整を依頼する。そういうケースは年１回くらい。明らかな間違いでなければ先方の意見を尊重している。	Bさん	書誌調整	
言語Ⅰ	2－⑨	書誌調整受付時の問題点	（コーディングマニュアルに曖昧な部分がある、という回答への補足）視聴覚資料の目録を取るに当たってはタイトルフレームの定義とか、マニュアルに責任表示を補記するとか書いてあるが、実際の書誌を見るとTRフィールドに補記して書いてあるものが少ない。本当に補記するのかと疑問に思う。	Bさん	書誌調整	
言語Ⅰ	2－⑨	書誌調整受付時の問題点	同一質問は集中してくる。みんながその書誌に登録しようとしているからと思われる。同一質問で多いのは、TRミス、ページ数など、同定に関わるもの。	Cさん	書誌調整	
言語Ⅰ	2－⑨	書誌調整受付時の問題点	作成館に責任が負わされる。自館作成後の他館の修正について聞かれる。pbkなど所蔵のないものについて回答できないが、判断や指示をしないといけない。	Cさん	書誌調整	
言語Ⅰ	2－⑨	書誌調整受付時の問題点	調整はNIIに頼まず自分でやってる。作成館だからそこまでやるべき、という感覚。	Cさん	書誌調整	

言語Ⅰ	2ー⑩	著者名典拠	可能な限りリンクしている。決まりがないので、担当者のスキルや作成の困難度次第でやる場合とやらない場合がある。難しい場合は無理して作らず、リンクも張らない。	Bさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅰ	2-⑪	件名・分類	担当者による。件名標目表ではなく、NDCSHなどウェブベースで確認できる範囲などで、1つめの主題など出来る範囲で行っている。分類も分かればつけ、分からなければつけない。	Cさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅰ	2ー⑫	件名・分類	WorldCat等、他機間の書誌に付与されているもの、また、版違いのものは旧版のCAT書誌を参考にすることもある。 利用するのは、LCSH、NDLSH、BSH、DDC、NDC		目録スキル（典拠）	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	2ー⑫	件名・分類	学内のほとんどでDDC分類　一学部のみNDCを使っている。目録業務は集中化しているが、その一学部だけ離れていて、図書室でつけている。目録担当者は1人。	Bさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅰ	2ー⑬	件名・分類をつける理由	件名は個人件名、普通件名をつける。統一書名はつけたことがない。つけていいのか分からないのでつけてないかも。	Cさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅰ	2ー⑭	書誌の構造	他機関のMARCを活用するためにCAT独自の書誌構造を見直すという理由であれば、変更することを検討してもよいのではと思われる。		NACSIS-CAT型書誌	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	2ー⑭	書誌の構造	書誌階層構造は慣れてしまえばOKではないか。そういうものと思えば難しくない。なれるまでは面倒なものと思われるのではないか。	Bさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅰ	2ー⑭	書誌の構造	階層構造のよさは一覧性だが、利用者が活かせていないように思う。	Cさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅰ	2ー⑭	書誌の構造	一覧性はOPACの検索で担保できるのでよいのでは？　技術の発達で重要性が下がっているかもしれない。	Cさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅰ	2ー⑭	書誌の構造	大学に入る前の学生は公共図書館の書誌データ（階層なし）に慣れている。システムで担保できれば不要ではと思う。	Cさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅰ	2ー⑭	書誌の構造	世界の他機関とデータ交換しやすいフォーマットがよい。	Bさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅰ	2ー⑭	書誌の構造	独特の構造なので、学生には分かりづらいのではと思う。	Bさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅰ	2ー⑮	作成館の修正義務	作成館が所蔵していない場合等、必ずしも作成館がタッチする必要がないものもあり、その辺りのラインを明らかにできるのでは。		書誌調整	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	2ー⑮	作成館の修正義務	調整はあるほうがいいか→別書誌になるような違うものなのに、直されると困るので、いらないとはいえない	Bさん	書誌調整	
言語Ⅰ	2ー⑮	作成館の修正義務	調整履歴があるとよい。利用者に見れないところにあって、同定に困る際に使いたい。先方の二度手間も防げる。	Bさん	書誌調整	改善提案：書誌調整履歴の記入 調整履歴はプレインタビュー２館でも聞いた。先行ワークショップでも検討されたはず。
言語Ⅰ	2ー⑮	作成館の修正義務	履歴は項目単位でなく書誌単位で見られる程度でよい。	Bさん	書誌調整	
言語Ⅰ	2ー⑯	共同分担目録の維持	色々な考え方があるかと思われるが、 ・各館が一から書誌作成することなく共有できるシステムなのであれば、現在のNACSIS-CATの形態にこだわる必要はないのでは。 ・労力、コストがかかっている部分について、今の技術でカバーできる部分があるのであれば、そういったものを活用し、導入することを検討してもよいのではと思う。		目録作成の体制	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	2ー⑯	共同分担目録の維持	（書誌作成の不公平感はあるか。今後大学として教育についてなどもがんばって作成していくのか。）　→　大学のメリット（特徴的な研究分野など、外部の情報がないもの）と目録が直結しているので、オリジナル書誌作成の体制を維持するのは可能。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	2ー⑯	共同分担目録の維持	自館が何を作っているのか（郷土資料的なもの？）を理解すると、目録の価値の見直しになるかも。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	3ー②	講習会	委託の方は受けていない。	Bさん	研修・教育	
言語Ⅰ	3ー②	講習会	セルフラーニングの問題：例題が簡単すぎて、本当の情報源を見ての書誌作成登録は難しいのではないか。	Bさん	研修・教育	

言語Ⅰ	3－②	講習会	ふだんの講習会でひっかかるような、中位の書誌、固有のタイトルの理解はセルフラーニングのみでは困難ではないかと思う。	Bさん	研修・教育	
言語Ⅰ	3－②	講習会	目録規則を学ぶ場ではない、というスタンスで行っているが、そこをカバーするものがない。	Bさん	研修・教育	
言語Ⅰ	3－②	講習会	（セルフラーニングの意義は？）　→　NACSIS-CATの意義、概念的なところが学べる。	Bさん	研修・教育	
言語Ⅰ	3－③	独自研修	独自ではないが、地区開催館として毎年常勤職員が講師を務めている。	Bさん	組織のスキル	
言語Ⅰ	3－③	独自研修	（地域講習会はどうするか）→　来年はやらない。前回行ったときは本学以外の受講者が25人、本学からは0人。	Bさん	研修・教育	
言語Ⅰ	3－③	独自研修	目録担当でなくても、学内で受けたい人の受講を認めた場合もある。	Bさん	研修・教育	
言語Ⅰ	3－③	独自研修	来年やらないことで声が上がれば、独自の講習会開催について検討もありうる。	Bさん	組織のスキル	
言語Ⅰ	3－④	スキル継承の手段	新人の教育は、係として体系的な教育はやってなく、セルフラーニングをやり、先輩が教えている。同じフロアにいるので、周りの人に聞きながらやっている。	Bさん	組織のスキル	
言語Ⅰ	3－④	スキル継承の手段	目録業務マニュアルとして、業務上で必要な情報やインターネット上の役立つリソースをまとめたwikiを作成。担当者全員で改訂している。学内処理が混じっているので、学外には公開できない。		組織のスキル	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	3－④	スキル継承の手段	レコード調整の受付を担当内で分担している。各種マニュアル類の確認、書誌への修正作業を通して、書誌作成への理解が深まる。		組織のスキル	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	3－④	スキル継承の手段	目録システム地域講習会の講師を務めることであらためて再確認すること、学ぶことが多く、スキルアップにつながっている		組織のスキル	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	3－④	スキル継承の手段	特になし。語学講習がないものもあるが、これまでの書誌を参考にしたりして対応している。先生からのフォローがある場合も。口伝、経験、努力。	Bさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	3－④	スキル継承の手段	外国語の研修は特に行っていない。学内語学研修がない言語もある。	Bさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	3－④	スキル継承の手段	サンスクリット語入力の場合、最初はヒットしたものに所蔵をつけるのみで目を慣らし書誌事項と情報源を一致させるようにした。翌年から新規作成を行った。学内の教員に翻字の協力をしてもらった。Google翻訳で手書き入力し、コピペで記述した。キーボード入力までのスキルは追いつかなかった。	Cさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅰ	3－④	スキル継承の手段	自分が読めない言語は情報源の見方を教えてもらって、後は自力で行っている。Google翻訳がなかったらできない。	Cさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅰ	3－⑤	今後身につけたい書誌作成スキル	和漢古書、くずし字。特に今困っている訳ではないが、扱えるとよいように思う。情報源の見方などの知識を得たい。	Bさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅰ	3－⑤	今後身につけたい書誌作成スキル	件名に関する体系的知識。自信がないので1階層しか入れられないが、入っていると利用者に役立つのではないか。	Bさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅰ	3－④	スキル継承の手段	実務上、主題検索をさせたい。	Cさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅰ	3－⑥	リポジトリのデータ	目録作業者はリポジトリのデータを担当していない。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	3－⑦	リポジトリのデータ	目録担当者のうち2名が以前メタデータ作成の経験がある。	Bさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅰ	3－⑧	特殊資料	DVD、マイクロ。遡及がメイン。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	3－⑧	特殊資料	マイクロ購入は学内研究センターで継続して出版しているものなどを購入している。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	3－⑧	特殊資料	DVD（動画）は学部図書館での映画資料、医療系など。	Bさん	目録対象資料	

言語Ⅰ	3－⑨	ORG作成の難しい点	日本語、アルファベット以外の言語の場合の情報源からの読み取り		言語のスキル	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	3－⑨	ORG作成の難しい点	書誌階層が非常に複雑になっているもの		目録スキル（記述）	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	3－⑨	ORG作成の難しい点	映像資料の記述要素の特定が難しく、先行書誌を見ながら作っている		特殊資料のスキル（形式）	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	3－⑨	ORG作成の難しい点	その他のヨミに翻字形が必要な場合の入力が煩雑		言語のスキル	質問紙に記述回答
言語Ⅰ	3－⑨	ORG作成の難しい点	読みづらい言語はデーヴァーナガリー、ウイグル、アラビア。文字の括りが分からないもの。	Cさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	3－⑨	ORG作成の難しい点	（学外に頼める場所があったら頼むか？）　→　自力でやるより早いなら頼むかも。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	3－⑨	ORG作成の難しい点	（１冊いくらくらいなら依頼する？）　　→　業者との比較。	Bさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	3－⑨	ORG作成の難しい点	どこまで書けばよいか悩む。できるだけ書きたいが、分からなくても最低限のデータを作る。	Cさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅰ	3－⑨	ORG作成の難しい点	MARCがない資料がある。学習教材などがない。映像資料、医療系ならMARCにある場合も。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	3－⑨	ORG作成の難しい点	外国語系大学の翻字サイトを活用＋google翻訳。	Cさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	3－⑩	作成後の点検	作成者以外による点検は特にしていない。	Bさん	組織のスキル	
言語Ⅰ	４－①	ロシア語資料	学内研究センターのもの。最近出版されたものが多い。政治経済関係が多い。文系。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	４－①	ロシア語資料	共同研究の資料などもある。 博物館、地域資料でも取っている。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	４－①	ロシア語資料	学内研究センターは遡及は終わっている？　→　学内研究センターはマイクロ資料を多く所蔵しているが目録データがとられていないものもある。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	４－②	ロシア語典拠	著者名典拠は業務では必ず作成することとしてないため、現状は無理には作っていない。読める文字でないと内容がわからないので作れない。	Bさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅰ	４－③	ロシア語資料受け入れ	今後もある。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	４－④	ロシア語書誌スキル	２名＋α。一人がロシア人、もう一人はロシア語が堪能。採用されたときにロシア語ができる人として採用された	Bさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	４－④	ロシア語書誌スキル	αは、担当として来たら何とかする方々。ロシア語ができるかはわからないが、来たら書誌をがんばってとる。アルファベットに置き換えられれば何とかなる。	Bさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	４－⑥	ロシア語書誌の研修	特にしていないが、学習会などは個人でやっている。アルファベットは覚えやすく、アルファベットにできればなんとかなる。目録は中堅の人が多く、本学の蔵書の中でロシア語の占める割合が多いので、その必要性はわかっていて、今までに身につけている。	Bさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	４－⑦	自館で作成困難な言語	サンスクリット語、アラビア語等、韓国語、チベット語、ウイグル語、入力の仕方を教えてほしい。	Cさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	４－⑦	自館で作成困難な言語	（言語も分からないものは？）　→　係で確認して、分からない場合は研究室へ問い合わせる。ISBNなどがあればそこから情報を得るが、あまりない。	Cさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	４－⑦	自館で作成困難な言語	難しい言語が寄贈の場合、対応ができない。研究者にマッチングできない。	Cさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	４－⑧	自館で作成困難な言語	（その言語の受入・作成は今後もあるか。）→ある。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	４－Ｘ	自館の目録の特徴	日本語資料は地域に関係するもの。遺跡や発掘報告書などが多い。昨年から登録するようになった。遡及でオリジナル作成が意外と多いかも。当該地域の報告書は多い。	Bさん	目録対象資料	

言語Ⅰ	４－Ｘ	自館の目録の特徴	ORGリスト、親書誌から引くと遡及が多い模様。研究所のマイクロのシリーズが多い。1200件くらい。遡及でオリジナルというパターンが多いのか。電算化前は遡及とすると、半分は遡及であると思われる。	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	４－Ｘ	自館の目録の特徴	新刊も結構作っている。洋書が多いが、和書もある。オリジナルのものは小さい出版社のものは書誌が割とない。英語の学習書など聞いたことのない出版社はオリジナルが多い。地方都市の出版社など	Bさん	目録対象資料	
言語Ⅰ	４－Ｘ	自館の目録の特徴	（目録を続けるとしたら、少数精鋭がいいか広がってほしいか）→すでに業務集中で少数精鋭。減ることがあっても増えることはない。	Bさん	組織のスキル	
言語Ⅰ	４－Ｘ	自館の目録の特徴	ロシア語入力の集中化は、業務としてやっていける体制になれば、品質の維持などができる。	Bさん	言語のスキル	
言語Ⅰ	４－Ｘ	自館の目録の特徴	（目録をなぜきちんと作っているか）　→　拠点としての意識、文化として残したいという意思がある	Bさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅰ	補足	他大学の状況	近隣の国立の単科や小規模大学と人事交流がある。図書系職員の採用はなく、図書館には本学から係長が出向し、目録業務を教えていたりする	Ａさん	組織のスキル	
言語Ⅰ	補足	他大学の状況	遠隔地域には、業務委託や人材派遣も対応してくれない。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅰ	補足	他大学の状況	小規模大学に聞くと、オリジナル全般に対して自信がないという理由で書誌をローカルのみに作る状況がある。	Ａさん	組織のスキル	
言語Ⅰ	補足	他大学の状況	本来は地域外で行う1～2週間の実務研修を利用して、本学でリポジトリのインターンシップを行ったことがあった。目録業務も同様の研修が行えたらと思う。	Ａさん	目録作成の体制	改善提案：目録研修のインターンシップ
言語Ⅰ	補足	他大学の状況	本学としては、地域内の大学のためになら、目録業務のセンター館的機能を持つことが考えられる。	Ａさん	組織のスキル	

テーマ	英語オリジナル書誌作成のスキル
インタビュー先	私立大学C
日時	2015年9月16日　9：00～10：50
インタビュイー	Aさん（課長クラス）、Bさん（係長クラス）、Cさん（係長クラス）、Dさん（非常勤職員）
インタビュアー	松尾、木下、南山

調査名	質問紙番号	質問内容	回答	話し手	カテゴリ	メモ
言語Ⅱ	１－⑤	目録業務外の担当	常勤は図書館及び大学の共通業務(図書館ガイダンス，学生実習，入試業務等)も担当する。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅱ	2－①	遡及入力	遡及入力は10年ほど前に終了した。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅱ	2－①	遡及入力	遡及入力は，JPMARCからNACSIS-CATへの変換作業と併せて行なっていた，作業に10年を要した。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅱ	2－⑤	ローカルのみの書誌作成	ローカルのみに書誌を作成することはある。資格試験の資料など保存年限の短い資料。3年をめどに削除する。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅱ	2－⑤	ローカルのみの書誌作成	研究室図書は消耗品扱いなので，OPACに公開しない。蔵書管理を行なわないので発注購入支払処理のみに必要なデータのみ作成している。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅱ	2－⑧	書誌調整受付時の問題点	回答を得るまでに時間がかかる。資料が研究室にあるなどの理由で回答がなく，書誌作成を保留にしなくてはならない。	Ａさん	書誌調整	
言語Ⅱ	2－⑧	書誌調整受付時の問題点	確認したい事項の修正館がわからず，確認先を探すのに手間や時間がかかる。	Ａさん	書誌調整	
言語Ⅱ	2－⑧	書誌調整受付時の問題点	解釈の違いが発生した場合に困る。ジャッジがいるわけではないのでもどかしいが，だからといって絶対的なジャッジが存在すればよいのか，難しい。	Ａさん	書誌調整	
言語Ⅱ	2－⑨	書誌調整受付時の問題点	書誌修正の履歴は残っているのか。データにあるなら参照できるようにして欲しい。修正した館に直接問合せをし易くなり，レコード調整がスムーズになる可能性がある。	Ａさん	書誌調整	
言語Ⅱ	2－⑨	書誌調整受付時の問題点	作成館に全ての責任が負わされるのは負担。	Ａさん	書誌調整	
言語Ⅱ	2－⑩	著者名典拠	可能な限りリンクしている。新規を無理に作るようなことはしていない。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅱ	2－⑩	著者名典拠	著者名典拠の方が件名・分類より重要で,CATを利用する全体のためのものなので行なっている。著者名リンクの活用はガイダンス等で行なっている。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅱ	2- ⑪	件名・分類	（コーディングマニュアルに曖昧な部分がある、という回答への補足）視聴覚資料の目録を取るに当たってはタイトルフレームの定義とか、マニュアルに責任表示を補記するとか書いてあるが、実際の書誌を見るとTRフィールドに補記して書いてあるものが少ない。本当に補記するのかと疑問に思う。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅱ	2- ⑬	件名・分類をつけない理由	件名はカードの頃は重要だったが，キーワードで検索ができるので昔より重要性は低くなったのでは。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅱ	2－⑭	書誌の構造	変更に賛成。ただし構造のわかり難さが解消されることが前提		NACSIS-CAT型書誌	質問紙に記述回答
言語Ⅱ	2－⑭	書誌の構造	独特の考え方に基づいていると思うが現状でも良いのではないか。基準の変更により新旧ルールが混在するほうがかえって混乱を招く。新ルールがどういう考え方になるかにもよる。		NACSIS-CAT型書誌	質問紙に記述回答

言語Ⅱ	2－⑭	書誌の構造	書誌階層構造やVOL積みの違いなど，わかり辛い。現物があってもどんな構造かイメージできない。ベテランの方は問題ないのかもしれないが，検索が簡単になっても必要な構造なのかと思う。	Ｂさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅱ	2－⑭	書誌の構造	もともと違うフォーマット(JPMARC)でやってきたので，それに比べるとややこしい。自館のシステムにあわせられず，JPMARC利用を暫く継続した後，15年ほど前にデータをコンバートしたという経緯がある。	Ａさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅱ	2－⑭	書誌の構造	国勢調査のデータなど，検索結果がわかりにくい。年次を順番に出すなどの改善はできないか。	Ａさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅱ	2－⑭	書誌の構造	3階層以上の書誌など，確かにわかりにくい面はあるが，書誌構造のしくみから考えると納得できる。	Ｃさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅱ	2－⑭	書誌の構造	ルール混在でデータがゆれると書誌作成の際に戸惑う。例として，VOL30以上のデータは載せられなかったが，今は可能。過去のデータが残っており，わかりにくい。分かち書きなどもそうである。	Ａさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅱ	2－⑭	書誌の構造	既にある書誌データを参考に書誌を作成することが多いが，新旧ルールが混在していると作成者は大変わかりにくいのではないか。	Ａさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅱ	2－⑮	作成館の修正義務	現状では作成館の負担が大きい。書誌の修正や現物記載事項の確認については作成館に限らず，複数の所蔵館による現物確認でも可能だと思う。		書誌調整	質問紙に記述回答
言語Ⅱ	2－⑮	作成館の修正義務	しかし，書誌についての捉え方(書誌構造の捉え方や，部編名をタイトルにとるなど)については現状のように権限を持つ館がなければスムーズに進まないと思う。		目録スキル（記述）	質問紙に記述回答
言語Ⅱ	2－⑮	作成館の修正義務	文法チェックのツールがあるとよい。書誌作成の際にCATのシステムに基本的なチェックができるとよい。	Ｂさん	目録スキル（記述）	改善提案：文法チェック機能
言語Ⅱ	2－⑮	作成館の修正義務	修正の履歴があるとよい。作ったら責任を持たなければならない。そういう覚悟でデータをあげている。	Ｃさん	目録スキル（記述）	改善提案：書誌修正履歴の参照
言語Ⅱ	2－⑮	作成館の修正義務	現状では間違いがあっても，他館から書誌調整を入れてもらえるという安心感もあるといえる。	Ａさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅱ	2－⑯	共同分担目録の維持	このシステムは共同分担しかない。どこかで全てを行なうのは無理。維持したいというより維持するしかない。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅱ	2－⑯	共同分担目録の維持	完成された書誌が使用できるにこしたことはないが，現物がないところで書誌を作成することは無理なので所蔵館による新規作成(共同分担)はやむを得ないだろう。		目録作成の体制	質問紙に記述回答
言語Ⅱ	2－⑯	共同分担目録の維持	労力が乏しい，書誌が難しい，ということなど，参加館すべてが平等にその役割を果たせないこともやむを得ない。五分五分でなくても互いの供給で補うのはILLと同じである。		目録作成の体制	質問紙に記述回答
言語Ⅱ	2－⑯	共同分担目録の維持	自館もその書誌ユーティリティーを使用している以上，たとえば図書館によって新規作成が多い，少ないというような不満はないだろう。		目録作成の体制	質問紙に記述回答
言語Ⅱ	2－⑯	共同分担目録の維持	コーディングマニュアルのサポート体制があり，わからない点を聞くことができて，自信がなくても作りやすいものになればよい。	Ａさん	目録作成の体制	改善提案：サポート体制
言語Ⅱ	2－⑯	共同分担目録の維持	このシステムを一人でセルフラーニングだけでやるのは難しいのではないか。実地の講習会に行かないと作れないと思う。しかし今年度からの書誌作成研修は敷居が高い。熟練者しか参加できないのであれば，当館の担当者は出せない。初心者が参加できる研修が必要。	Ａさん	研修・教育	改善提案：初心者対象の研修体制継続
言語Ⅱ	3－③	独自研修	特に研修はしていない。担当者が疑問をもったところを打ち合わせる。	Ａさん	研修・教育	
言語Ⅱ	3－④	スキル継承の手段	スキルのある人に聞いてやっている。	Ａさん	組織のスキル	

b	3－④	スキル継承の手段	他大の遡及入力の臨時職員に採用されたとき，当時はNIIの研修がなくその大学で一ヶ月かけて目録の研修をうけ，遡及入力を行なった。コーディングマニュアルの知識から書誌作成のチェックなどで知識を身につけた。その後は実務経験をとおして，不明な点は職員へ質問し，毎日オリジナル書誌を作成することによってスキルを身につけた。聞くことができる先輩がいることは重要だと思う。	Ｄさん	組織のスキル	
言語Ⅱ	3－⑥	リポジトリのデータ	目録作業者はリポジトリのデータを担当していない。	Ｄさん	目録作成の体制	
言語Ⅱ	3－⑦	リポジトリのデータ	目録担当者のうち１名が以前メタデータ作成の経験がある。	Ｄさん	目録作成の体制	
言語Ⅱ	3－⑦	リポジトリのデータ	（書誌とメタデータを一緒に考えるのは抵抗があるか？）→メタデータ＝書誌事項という認識はある。	Ｄさん	目録作成の体制	
言語Ⅱ	3－⑦	リポジトリのデータ	（書誌とメタデータを一緒に考えるのは抵抗があるか？）→構造を考えると違っている。	Ｄさん	目録作成の体制	
言語Ⅱ	3－⑧	特殊資料	特殊な書誌は作成していない。	Ｄさん	目録対象資料	
言語Ⅱ	3－⑨	ORG作成の難しい点	書誌の区切りなどの文法。チェック機能があるとよい。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅱ	3－⑨	ORG作成の難しい点	解釈でゆれが発生すると思われる場合。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅱ	3－⑩	ORG作成の難しい点	作成者以外による点検は特にしていない。	Ｄさん	組織のスキル	
言語Ⅱ	４－①	英語資料	英文学，英語学，心理学，教育，歴史，芸術など	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅱ	４－②	英語典拠	英語書誌の著者名典拠は作成していない。リンクは付与。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅱ	４－③	英語資料受け入れ	今後もずっと受け入れる。	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅱ	4月4日	英語書誌スキル	高度に英語を読解できるのは1人。目録作成者全員一定の英語スキルはある。	Ａさん	言語のスキル	
言語Ⅱ	４－⑥	英語書誌の研修	行なっていない。以前の職場では行なっていた(委託職員)。	Ｄさん	言語のスキル	
言語Ⅱ	４－⑦	自館で作成困難な言語	ある。英独仏伊露などは大丈夫だが，非アルファベットのタイ語などは困難。外国語大学の翻字サイトを参考にしながらなんとか作成している。	Ｄさん	言語のスキル	
言語Ⅱ	４－⑦	自館で作成困難な言語	ネットで翻訳がある程度できればなんとか作れるが，そうでない場合は難しい。	Ｄさん	言語のスキル	
言語Ⅱ	４－⑦	自館で作成困難な言語	個人によって異なるが，アルファベット系の言語はなんとか。非アルファベット言語は困難という傾向。	Ａさん	言語のスキル	
言語Ⅱ	４－⑧	自館で作成困難な言語	（その言語の受入・作成は今後もあるか。）→ある。	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅱ	補足	(書誌作成について)	近年出版年の新しい洋書を購入している。洋書のCATヒット率が低く，新規を作るケースが多い。外部MARCもヒットしない洋書が多い。外部MARCでヒットするのはUSかUK,ドイツ語はDN	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅱ	補足	(書誌作成について)	洋書のほうが書誌をつくるハードルが高い	Ｂさん	言語のスキル	
言語Ⅱ	補足	(書誌作成について)	大学の規模が小さいので，書店への発注が早く，購入も早い。選定ではなく，教員からの直接発注で，受入から整理までも早く滞貨がない。CATに書誌がないものが多い。	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅱ	補足	(ORG書誌作成について)	和書のORGで多いのは，最近は経済と社会福祉。地域資料などもCATに書誌がなければもちろん作る。	Ａさん	目録対象資料	

言語Ⅱ	補足		セルフラーニングだけでは目録をとるのは不安。実地の講習会は必要だと思う。セルフラーニングをみんなでやるなど自主的に行なってはどうか。	Ａさん	研修・教育	
言語Ⅱ	補足		地域講習会の前に目録規則の講習がほしい。	Ａさん	研修・教育	改善提案：初心者対象の研修体制継続
言語Ⅱ	補足		質問はNIIに聞いている。他の大学に聞くことはない。地域ごとに質問できるところがあるとよい。	Ａさん	研修・教育	改善提案：地域のサポート

テーマ	非アルファベット文字資料のオリジナル書誌作成のスキル
インタビュー先	国立大学C
日時	2015年10月6日　15：00～17：１０
インタビュイー	Aさん（課長補佐クラス）、Bさん（係長クラス）、Cさん（係員クラス）、Dさん（係員クラス）
インタビュアー	木下、南山

調査名	質問紙番号	質問内容	回答	話し手	カテゴリ	メモ
言語Ⅲ	１－①	目録担当者	本学の学生や言語スキルを持っている非常勤の人に来てもらっている	Ｃさん	言語のスキル	
言語Ⅲ	１－①	目録担当者	職員としての言語の分担があり、非常勤の人と組んで作業をするようになっている	Ｃさん	言語のスキル	
言語Ⅲ	１－①	目録担当者	冊数はそんなに多くないので、アルバイトの時間数は、冊数に応じて決定。人によっては週に1時間だけという場合も。特殊な言語が多いので、体が空かないということもある	Ｃさん	目録作成の体制	
言語Ⅲ	１－①	目録担当者	(言語のスキルのある人は学内で公募？)→公募ではない。ドイツ語などでも先生にお願いして言語のスキルを保証していただいた方に来てもらっている。	Ｃさん	言語のスキル	
言語Ⅲ	１－①	目録担当者	専攻言語の代表の先生に紹介してもらうことが多い	Ｃさん	言語のスキル	
言語Ⅲ	１－①	目録担当者	学内でめどがつかないと学外の方を先生に紹介してもらっている。	Ｃさん	言語のスキル	
言語Ⅲ	１－⑤	目録業務外の担当	(リポジトリのデータで特殊な言語はあるか?) → 論文単位では特殊言語はほぼない。リポジトリにも本の全ページや表紙などを登録する場合があるが、その場合には目録でとってもらうので、本としてすでに取っているものになる。学位論文もOPACでのデータ作成後、流し込むのがメイン。	Ｃさん	目録作成の体制	
言語Ⅲ	2－①	遡及入力	遡及入力の担当は常勤3名／非常勤4名、カレントが常勤4名／非常勤14名。遡及もカレントもやっている。	Ｃさん	目録作成の体制	
言語Ⅲ	2－⑤	ローカルのみの書誌作成	ローカルのみになっているのは、学術資料として見なさないもの、博士論文などはローカルのみで作っている。リポジトリのほうではちゃんと登録している。現物の中身判断であって言語別にそうしているものはない。どんな言語でも刊行しているものであればローカルのみというのはない。	Ｃさん	目録対象資料	
言語Ⅲ	2－⑧	書誌調整依頼時の問題点	解釈の違いがおきやすいのは階層のことが多い。極力相手の判断を尊重している。	Ｃさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅲ	2－⑧	書誌調整依頼時の問題点	特殊言語でいうと、国によって刷と版の理解の違いがある。書誌を分けるタイミングがそれぞれの言語の担当者で違うので、その言語を始める場合は調整が起きて、それをすり合わせていくというかたちになる。	Ｃさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅲ	2－⑩	著者名典拠	東南アジア諸言語やアラビア語の名前で、言語的な制限はしていない。難しいのは姓名の選択。東南アジアやアラビアなので、どれが姓か名か迷うような場合。または単純すぎて区別できるのかどうかという場合が難しい。	Ｂさん	言語のスキル 目録スキル（典拠）	

言語Ⅲ	2-⑪	件名・分類	（コーディングマニュアルに曖昧な部分がある、という回答への補足）視聴覚資料の目録を取るに当たってはタイトルフレームの定義とか、マニュアルに責任表示を補記するとか書いてあるが、実際の書誌を見るとTRフィールドに補記して書いてあるものが少ない。本当に補記するのかと疑問に思う。	Ｂさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅲ	2-⑪	件名・分類	（独自分類はしていない？）→していない。独自の件名などはやっていない。	Ｃさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅲ	2ー⑭	書誌の構造	（アラビアのMARCはある？）→現在のところ未調査。アラビア文字司書連絡会で情報を募ると有益な情報が得られる可能性がある。	Ｃさん	言語のスキル	注目点：アラビア文字系のMARCの調査
言語Ⅲ	2ー⑭	書誌の構造	（MARCを原綴りに直す作業が発生していることは）→USMARCなど参照MARCのデータで原綴りの情報がREMに入ってしまっている場合がある。原綴り化作業でこのデータを活用できると作業効率が上がるように感じる。	Ｃさん	言語のスキル	改善提案：原綴部分をそのまま移行できれば省力化
言語Ⅲ	2ー⑭	書誌の構造	書誌の作成では、なぜ、世界的に流通しているはずの本のデータが日本での書誌作成時に簡単に入手できないのかということが重要な問題だと感じる。書誌の構造がネックで他のMARCと情報交換することができないなら解消してほしい。	Ｃさん	目録作成の体制	改善提案：海外で作られるＭＡＲＣ導入
言語Ⅲ	2ー⑭	書誌の構造	（特殊言語は各国の国立図書館などのデータが利用できるのかと思っていた）→ない。OCLCが今まで使えていたが、NIIが契約を止めてからはWorldcatから１個ずつコピーをしている状況。 諸言語の本国のOPACを参照することがあるが、基本的に翻字が入ってないので、翻字の確認ができないという問題点がある。	Ｃさん	言語のスキル	注目点：OCLCが使えなくなったので、作成に手間がかかるようになった
言語Ⅲ	2ー⑮	作成館の修正義務	目録データが正確になって豊かになる方向であればどちらでもよいが、修正をためらうようなマイナスの動機付けになるような変更は望まない。積極的に豊かにしたいと思わせるような方向になればよい。	Ｂさん	共同分担目録	
言語Ⅲ	2ー⑯	共同分担目録の維持	（共同分担目録を今後維持していきたいか。目録作成は負担か）→各館の事情は考えないといけないが、共同分担は共有するための仕組み。共同分担で作った目録の中には、当館しか所蔵がない本があるが、ユーザーは自館のみでない可能性がある。多言語資料の目録は、可能であれば海外とも共有したい。世界で当館だけしかない本もあるので、世界中の人に使ってほしい。	Ｃさん	共同分担目録	
言語Ⅲ	2ー⑯	共同分担目録の維持	私たちの1回の登録の手間は1館のユーザーのためだけにとどまってほしくなく、もっとたくさんの人に価値のあるものになってほしい。できればよその館も1冊の本にはそれだけの価値があるので共有してほしい。日本にしかないものもデータベースがきちんとできた形で海外に出てみんなが使える状態にするというのが図書館としての大事な仕事なのではないか。各館ができないというならそれをどうすべきか考える。	Ｃさん	共同分担目録	
言語Ⅲ	3ー②	講習会	（マンツーマンはどのくらいの期間つくなどのやり方があるか。）→特殊言語の場合は、英語やドイツ語など一般的な言語で、システムの使い方や所蔵登録、流用入力、新規入力方法を習得してから、原綴りの登録作業を行う。関連するルールは、全体像ではなくて出現ケースに基づき、基本的なものを学んでもらい、一人で作業可能になるように教育している。	Ｃさん	組織のスキル	
言語Ⅲ	3ー②	講習会	ヨーロッパ系言語であれば実際に手元の本を見ながら検索してもらって、ヒットしたデータを同定、識別できたら登録という手順で行う。言語によって独り立ちするまでの時間が異なっている。徐々に、半年くらいやっていけば一人で作成ができるようになる。作成書誌は、必ず職員が確認を行っている。	Ｂさん	組織のスキル	
言語Ⅲ	３ー⑪	他機関との連携	アラビア文字司書連絡会以外は特にない。	Ｃさん	目録のネットワーク	
言語Ⅲ	３ー⑪	他機関との連携	(非アルファベット言語以外でもそのような連携はないか)→東京西地区の講習会で読めない資料の書誌をどうやって取るかという内容で、目録が取り上げられたことがある。定期的にやっている、担当者間の連絡会等はない。	Ｃさん	目録のネットワーク	改善提案：読めない資料の書誌の取り方講習会
言語Ⅲ	４ー①	非アルファベット文字資料	モンゴル語、ヒンディー語、アラビア語、ラオス語の入力が多い	Ｃさん	言語のスキル	

言語Ⅲ	４－⑤	非アルファベット文字スキル	主題の分析という中身を読めないとできない作業があり、せめてあとがきが読める程度のスキルがないとできない。	Ｃさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅲ	４－⑦	自館で作成が困難	アッサム語などインド系諸語。人が見つからない言語がある。	Ｃさん	言語のスキル	
言語Ⅲ	４－X	特殊資料の取り扱いおよび解説	ベンガル語の翻字など、一部LC翻字にない言語があるとき取扱いに困る場合がある。ただし、特殊言語の取り扱いを飛び越えるような運用はしていない。	Ｃさん	言語のスキル	

テーマ	多言語資料のオリジナル書誌作成のスキル
インタビュー先	私立大学A
日時	2015年10月29日　9：30～11：30
インタビュイー	Aさん（係長クラス）、Bさん（係員クラス）、Cさん（委託会社A）、Dさん（委託会社B）
インタビュアー	松尾、木下、南山

調査名	質問紙番号	質問内容	回答	話し手	カテゴリ	メモ
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	業務委託の管理をするという担当者としては常勤３名がいる。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	自分の業務経験に関していえば直接目録を取るというより遡及入力の管理をしていた。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	後から入ってきた人は直接目録をとった経験はないが、管理業務を行っている。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	業務委託は2名と書いたのは、純粋にクリエイトしている方は2名という意味。新刊の書誌作成。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	レコード調整やローカルのデータをきれいにしたりするのはほかの業務を含めて３名、リポジトリなど書誌関係の仕事も行っている。	Cさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	図書館内で目録を作成している以外に大阪と東京の2カ所で作業をしている。	Cさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	作業場所への搬送の切り分けは、キャンパス毎で分けている。	Cさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	学部や研究所の図書室20数館、目録受入は一括で図書館でやっているのでそれぞれの図書館から図書館への搬送などもある	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	本は図書館で受け入れて処理をしてから、整理に出す。発注して直接外で整理することは一部を除いてない。	Cさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	各学部はそれぞれの図書室で業者の受入担当を経由している。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	目録以外で業者がやっている業務は、雑誌のチェックイン、製本、リポジトリなど。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	1-①	目録担当者	これは2名がやっているわけではなく、大きな目録業務の担当の中で行っている。	Cさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-①	書誌作成	（コーディングマニュアルに曖昧な部分がある、という回答への補足）視聴覚資料の目録を取るに当たってはタイトルフレームの定義とか、マニュアルに責任表示を補記するとか書いてあるが、実際の書誌を見るとTRフィールドに補記して書いてあるものが少ない。本当に補記するのかと疑問に思う。	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	2-⑤	ローカルのみの書誌作成	ローカルのみの書誌はある。書誌単位と異なる独特な製本のものなど。月報などをまとめていたもの、修士論文など。ものの管理をするために作っている。NACSIS-CATに載せるのはどうかと思うもの。閲覧上の理由があるものなどをローカルで作成している。	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	ローカルのみの作成するケースは、NACSIS-CATにつくるのが大変という理由ではない。	Ａさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	和本など自筆のものはローカルで作成している。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	特殊資料の判断は、過去の図書館の基準によって、自筆のもの、古文書や草稿を含めて一律ローカルのみの書誌にすると決定された経緯がある。	Ｄさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	自筆のものもNACSIS-CATの規則で目録を作成している。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	ローカルのみのものでも、リプレイスの際には、システムの移行対象である。	Ａさん	目録対象資料	

言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	資産台帳としては、図書館システムは使っていない。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	ローカル書誌にする基準以外であれば、特殊な資料でもNACSIS-CATに載せている。原則NACSIS-CATに上げるようにしている。和古書も自筆ではなく出版されたものであれば、金額に関係なく上げている。	Ｄさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	特殊な形態の資料には自筆製作かるたなどがある。江戸時代のもので、源氏物語の場面のかるたを自筆で製作されたもので、ローカルの書誌にはある。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	カルタはリポジトリに画像を上げている。研究対象としている教員がいる。	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	図書以外の形態のものを登録するのは目録規則的に大変だが、やっている。	Ａさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	もともと貴重書をwebで公開するシステムがあって、そこにあるものをリポジトリに登録している。	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	昔は図書館内で撮影していたが（撮影業者が行う）、今はそこまでやっていない。素材そのものを用意するのは図書館、リポジトリでメタデータ作成やアップロードは目録の委託業者が行う。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成の理由	（CATの登録とリポジトリの登録の切り分けは？）→NACSIS-CATは物理単位の管理として登録、リポジトリは公開として登録。その二つは連動はしていない。入ってから電子化のプロセスを経るので、リポジトリの登録はもっと後になる。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	初歩的な質問に答えられない担当者に当たることがある。こちらがタイトルでなく責任表示でないかなど指摘したとき、どうやって修正したらよいか、とかどこに書けばいいか、区切り記号はとか、基本的なことを聞かれる場合がある。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	VOLを追加してください、階層を変えてください、などの依頼も、VOLを追加してどこを修正したらよいか、階層を変えると他も修正しないといけないが、どこを修正したらいいかと聞かれたことがある。その後、所蔵館の連絡はどういう風にしたらいいか。重複の可能性の問い合わせには、重複はどうしたらいいですか？　書誌が消せないんですが、などのやりとりがあった。削除や修正について、システムも違うので、こちらから教えられないことなどがある。以前よりそういうケースが増えているように思う。そういう調整は新刊書が多い。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	慣れてない図書館が多くて、初めてやりとりする館がある。	Ｄさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	私大だと委託も多いはずで、大学のスタッフなのか業者なのかは分からない。	Ａさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	目録作成は委託で、書誌調整は職員が行っていて、問題点があると言われても対応できないのかもしれない。業務委託のスタッフが熟練していないのか、職員の方かどちらか分からない。	Ｄさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	本学では（書誌調整の）窓口対応から委託業者が担当している。	Ａさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	（受付時の問題点）→複数キャンパスの存在や、多くの資料が学部や研究室所蔵という事情もあり、すぐの対応や現物の確保が難しい。	Ａさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	問い合わせを出すと、その日に回答が返ってくる図書館もある。書誌調整のレスポンスが早くなっている。3日返信しないと問い合わせが来ることもある。	Ｄさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	発見館修正可でも問い合わせが来ることがある。反対に自館作成分が勝手に直されているときがある。気がつかないことが多く、複本を登録するときなどに気がつく。修正し直して、修正館を含めて連絡をするので、追及はしない。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	修正指針と修正事項一覧が見られていないのではと思う。こういうところは職員同士の口伝えの部分で、そこが伝わっていないのではと思う。修正事項にあるので修正しましたとお伝えしている。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	書誌調整の解釈の違いで納得が得られないことがある。部編名の解釈などが多い。部編名か固有のタイトルかで解釈が違う。納得いただけない場合もある。新刊でもそういうケースがあるが、過去に登録したものが多い。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	和洋の違いでいうと、解釈の違いは洋書の方が多いように思う。和書でも科目名など、数学、化学、物理などついているものが部編か固有のタイトルか、など。資料の内容にもよる。	Ｄさん	目録スキル（記述）	

言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	どちらも譲らないときはNIIに相談することが多い。（NIIの回答はあるか）→作成館の意見に従ってはどうですかという回答が多い。早いと2－3週間で返ってくる。昔に比べたら早くなっている。	Ｄさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	根拠なく修正を依頼されることがあり、図版数など、裏表1枚と片側1枚のとき、2枚と書くのか補記して3ページになるのかというような、書誌の同定に関係ない事項まで質問される。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	ほかの目録規則でページ数がこうなっているからこう適用すべきと長々と書いてきてくださったりするが、自館の目録だけ作るのであればそれもいいと思うが、NACSISの書誌は全国で共有しているものなので、いろんな考え方や解釈があるからこそ、規則に基づき運用することが望ましいのでは。協議して品質が上がる分にはどんどんやるべきで、ただ規則になく解釈の割れるようなところは総合目録のデータベースなので、作成館の意見に従うというところが維持には必要ではないか。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	規則に基づくところ、解釈が許されるところが相互にバランスをとりながらやっていけるといいのではと思う。図書館同士で、やりとりが1対１になるので、こじれたくはない。規則に基づいた書誌をつくるのは絶対で、そのために修正をしていくことが重要。自館だけのものではなく全国の大学で共有しているものという目線も必要。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	情報源の添付なしというケースもある。昔はFAXだったので、たいてい情報源がついていたが、メールだと案件だけで情報源なしの場合もある。図書館の事情でPDFが簡単にできないことも考えられる。外部委託などでものが大学にないのかもしれない。こっちの情報源を送って、聞くときもある。その場合情報源を送ってもらえることもあり、ないこともある。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	目録を作っているのは委託、外部との問い合わせのやりとりは職員がしているというケースは多いような気がする。大学がどこの範囲を委託しているかによる。大学の規模や人員配置にもよるが、委託の仕方によってそういうことが起こると思う。	Ａさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	調整は必要と思うが、Worldcatのような作った書誌が全部あって、書誌調整も必要ないという形もありなのかと思う。新しいRDAのように全部転記する方針になっていると、区切りの調整などは不要になると思う。書誌調整は総合目録の品質のためにやってはいるが、果たしてこのままでいいかというのは目録担当者と話をする。	Ｄさん	目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	ベースになる考え方には（利用者が）検索できたらいいというのがある。いかに検索させられるか、ものがどこにあるかが分かればよいという発想で行っている。	Ａさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	今後のデータベースのあり方、方針によって書誌調整も変わってくる。	Ｄさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	書誌構造、階層にはどうしてもはみ出るものがあり、レコード調整が発生する。重複書誌を認めない、構造をきちんと維持していくというのであれば調整はなくならない。	Ｃさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	Worldcatはたくさん書誌がでてくるので、こういう作り方もあるという参考になる。	Ｃさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑭	書誌の構造	3階層以上の書誌になると、中位の書誌か、並列の親書誌か判断に迷う場合が非常に多い。そのためレコード調整や重複書誌の増加につながっている。よって、親書誌は2階層までとし、中位の書誌は作成せず、すべての親書誌とリンクさせてはどうか。 例）TR:こころ PTBL:岩波文庫 PTBL:夏目漱石全集 ※以下のように、「夏目漱石全集」を中位の書誌とする3階層にはしない。 TR:こころ PTBL:岩波文庫 ． 夏目漱石全集		NACSIS-CAT型書誌	質問紙に記述回答 改善提案：3階層書誌の解消
言語Ⅳ	2-⑭	書誌の構造	書誌階層はセットやシリーズ名のような出版社の意図があればよいが、中位の書誌を作ってまとめるのはもういいんじゃないかという気はしている。中位の書誌をつくってまとめる意図は、無駄にレコードが散逸するのを避けたいという狙いがあったのかと思うが。	Ｄさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅳ	2-⑭	書誌の構造	洋書などロゴマークみたいなものをシリーズ名ととって、階層とするかどうかの判断に迷う。	Ｃさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅳ	2-⑭	書誌の構造	リンク関係をたどれ、検索ができて見られるのは良い。中位か並列であるかなど、解釈のところで混乱したりする。	Ｄさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅳ	2-⑭	書誌の構造	利用者の使い方による。リンクしなくても名寄せなどで集められるのではと思う。	Ｃさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅳ	2-⑭	書誌の構造	昔は目録の作り方だけを考えていたが、今はOPACでの見え方なども考える。ISBNをキーにするとVOL積みならいっぱい他のものも出てくるので、変えたほうがいいのではなど、目録の世界じゃないところから見たときに違ってくる。	Ａさん	NACSIS-CAT型書誌	

言語Ⅳ	2-⑭	書誌の構造	シリーズらしきものがあるのなら、リンク関係が活きると思うが、本タイトルとタイトル関連情報があって、本タイトルが共通しているものを親書誌にするケースがしょっちゅうある。遺跡の発掘報告書などが多い。例えば〇〇遺跡⇒親書誌、工事概要名がタイトルになるような。それをわざわざまとめないといけないか、利用者にとっても工事概要名がタイトルでいいのかと思う。その〇〇遺跡が〇〇町遺跡など変化するなど、いろんなケースがある。記述してくれたらいいがそう書いてないものも多い。それをまとめる必要があるのかと思う。この階層表現の基準を再検討してほしい。	Ｄさん	目録スキル（記述）	改善提案：共通するタイトルを階層にするのをやめる
言語Ⅳ	2-⑭	書誌の構造	（セット物の1巻目を所蔵していなければ2巻目以降の資料を基にして書誌を作成することになるが）1巻目の著者が違っていれば、1巻目の所蔵館よりレコード調整を受け、修正することになり、一つの書誌を完成するのに、複数の手間がかかることになる。	Ｃさん	書誌調整	
言語Ⅳ	2-⑩	著者名典拠	著者名典拠は、参照MARCに典拠レコードがあって、生年月日がはっきり同定できるものに限って作成している。	Ｄさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅳ	2-⑩	著者名典拠	典拠に関しては慎重になっている。できるだけ作れるものは作る。生年月日まで間違いないというふうにしてから流用している。１から作ることはほとんどしていない。	Ｄさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅳ	2-⑬	件名・分類をつける理由	件名や分類はつけていない。委託仕様に含まれていない。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅳ	2-⑬	件名・分類をつける理由	（件名をつけることは）契約にかかわり、費用面で現実的ではない。参照MARCに件名があればそのまま流用している。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅳ	2-⑬	件名・分類をつける理由	請求記号設定のために分類は付与される。書誌上の分類や件名については、過去もつけてはいない。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅳ	2-⑬	件名・分類をつける理由	件名付与は難しく時間と手間のかかること。オリジナルの分類をつけていた時代もあるが、件名は用意していなかった。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
言語Ⅳ	2-⑬	件名・分類をつける理由	各大学ではなく、NIIなどで共同分担目録を維持するのであれば、そういうのを付与する組織がほしい。各大学で作るのは典拠や件名を作るのはしんどいかなと思う。ある程度期間を区切ったかたちで整理をすることになっているので、やれればいいが時間とコストの問題がある。国会図書館とタイアップするのもいいし、いろんなやりかたがあると思うが、高いスキルの業者か何かスペシャリスト組織がコントロールするようなものがあれば、中小の大学図書館がレベルの低い業者にアウトソーシングして困るようなことがないのではと思う。	Ａさん	目録スキル（典拠）	改善提案：件名付与機関の創設
言語Ⅳ	2-⑬	件名・分類をつける理由	リポジトリも各大学で作る必要がないと思っている。NIIで1個のサーバがあればと思ってDRFが発足したころに言ったことがある。それからJAIROクラウドができた。そのように集中化できれば。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑮	作成館の修正義務	誰がどこが修正したか分かるようになれば、作成館の義務にしなくてもよいかと思う。	Ｃさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑮	作成館の修正義務	そこまでするのがいいのかどうかというところもあって、犯人探しにもしたくない。そういう意地悪ツールにはしたくない。現状で問題ない。	Ｄさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑮	作成館の修正義務	（共同分担目録を維持したい理由は？）→総合目録データベースがあるから、全国の大学が目録を一律に作って効率化ができる。図書館も他の業務が増えていて、人件費がかかり資料購入などの費用もかかる。	Ｄさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑮	作成館の修正義務	目録に関する業務のプライオリティが昔ほど高くないので、なかなか人とお金を投資することができない。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑮	作成館の修正義務	多くの私大は（目録作成業務を）委託をしていると思う。規則が決まっているので、業務委託になじみやすい。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑮	作成館の修正義務	窓口の業務委託をやっているところも多いが、何が起こるかわからないから、あれも結構大変で、仕様に落としづらい面もある。私大が経営面を考えたとき、一番ターゲットになりやすい。管理というよりどういうふうに提供するかというところがあるので、一番やり方として、こういう業態に落としやすい。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑯	共同目録体制の維持	今後維持したいかというと、ILLもあるし、やめるのは無理ではと思う。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑯	共同目録体制の維持	今後電子化が進んでILLのニーズが少なくなれば違ってくる。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	2-⑯	共同目録体制の維持	総合目録を維持するかどうかは、海外に向けてどんな日本のデータを提供するかということも考えるべきでは。海外から日本の本を検索するニーズにどう対応するか考えていくかなど。	Ａさん	NACSIS-CAT型書誌	

言語Ⅳ	2-⑯	共同目録体制の維持	もし総合目録をやめるとすると、どういうパッケージシステムでやっていくかなどを考えなくてはいけない。もしNACSIS-CATがなくなったら、データの作りやすさなど、それぞれの各大学で持っているパッケージの中で参照MARCを検索して取り込んでいくようなつくりになるのか。	Ａさん	NACSIS-CAT型書誌	
言語Ⅳ	3-①	書誌作成スキル	学内の作業者が9名目録スキルを持っている。システム研修は大学で受けたものではなく、NII講習会（業者向けのもの。４～５年前）。セルフラーニングは新規の2名。	Ｄさん	組織のスキル	
言語Ⅳ	3-③	書誌作成スキル	再委託先の社内での独自研修はある。再委託先は関西と東京にもある.	Ｄさん	組織のスキル	
言語Ⅳ	3-①	書誌作成スキル	大学の常勤職員のうち２名は、NII講習会を受けている。セルフラーニングは1名。	Ａさん	研修・教育	
言語Ⅳ	3-①	書誌作成スキル	委託の管理といっても図書館の業務経験がない人が、図書館に異動して委託の管理などを担当している。	Ａさん	組織のスキル	
言語Ⅳ	3－④	書誌作成スキル	スキルの継承はOJTが中心。	Ｄさん	組織のスキル	
言語Ⅳ	3-⑤	今後身につけたい書誌作成スキル	身につけたいスキルは和古書。くずし字。かなは練習して毎日みているとつかめてくるが、漢字が入るとかなり難しい。	Ｄさん	特殊資料のスキル（内容）	
言語Ⅳ	3-⑤	今後身につけたい書誌作成スキル	手紙、大福帳などを今でも研究者が購入しているので、和古書スキルは必要。	Ｄさん	特殊資料のスキル（内容）	
言語Ⅳ	3-⑤	今後身につけたい書誌作成スキル	（研究者から目録作成の）後で指摘を受けることがある。	Ｄさん	研修・教育	
言語Ⅳ	3-⑤	今後身につけたい書誌作成スキル	自筆はローカルへ入力し、そうでなければNACSISへ登録する。	Ｄさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	3-⑧	書誌作成スキル	大学の中はいろんな資料があり、そのスキルは必要。委託仕様には和漢古書や資料の形態にかかわることは入っていて、過去の前提として挙げている。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
言語Ⅳ	3-⑧	書誌作成スキル	仕様は類例であって、限定にしているのではなく、このようなものがあると示してある。	Ｄさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	3-⑧	書誌作成スキル	作らないというのはない。目録の担当者に来る前に、受入の段階で、特に形態が特殊なものなどは、図書として財産登録しOPACに載せるかという判断をする。例えば壷や手紙など、目録を作成および管理しにくいものは登録しないという判断を学部や研究室と話をすることがある。	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	3-⑧	書誌作成スキル	断ったものとして、USBメモリに入った資料がある。全集ものの本文がPDFが中に入っているようだが、コピーの可否やOSに対応しているなどが分からないので、登録しなかった。	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	3-⑧	書誌作成スキル	磁気オープンリールのテープの依頼もあった。登録しても再生装置がないため利用提供できないのでやめてもらった。まだ可視化できるものであれば受け入れるが、機器が対応できないものは断っている。	Ａさん	目録対象資料	
言語Ⅳ	3－⑨	ORG作成の難しい点	・書誌階層の判断 ・和書の版次で別書誌を作成するかどうかの判断 ・正しい分かち書きやヨミの調査 ・外国人の姓と名の区別 ・大文字使用法		目録スキル（記述）	質問紙に記述回答
言語Ⅳ	4-①	特殊言語	学部の新設で中国語のコースができて、中国語などが増えた。	Ａさん	言語のスキル	
言語Ⅳ	4-①	特殊言語	アラビア語の資料はイスラム研究の教員がいて、授業もあるため、入力している。ペルシャ語もある。	Ａさん	言語のスキル	
言語Ⅳ	4-①	特殊言語	非アルファベット文字のハードルはやはり高い。スゴーカレン語など、ミャンマーあたりの少数民族の言葉で、始めは何語か分からないものがあった。	Ｄさん	言語のスキル	
言語Ⅳ	4-①	特殊言語	学内常駐はしてないが、業者のほうでアラビア語に対応できる人などをスポット的に派遣して対応している。その人は学生さんや院生さんなど研究者で、目録のスペシャリストとは違っていたりする。	Ｃさん	言語のスキル	
言語Ⅳ	４－X	特殊言語	（特殊な言語など）自前でやる分にはがんばってやるのだと思うが、業務委託の形態でやる場合はあらかじめ業者に情報提供してやってもらうしかない。	Ａさん	言語のスキル	
言語Ⅳ	４－X	業務委託	言語さえ分かればこちらは目録の情報源が分かるので、データ自体は作れる。	Ｄさん	言語のスキル	

言語Ⅳ	４－X	業務委託	（目録に関するネットワークなどはあるか？）→スキルは社内のスタッフで共有。ほかの大学とやるよりも社内で相談していることが多い。目録についても言語のスキルなどについても。	Ｄさん	組織のスキル 目録スキル（記述）	
言語Ⅳ	3-⑪	業務委託	（目録に関するネットワークなどはあるか？）→私大は目録をとらないので、ネットワークはあまりないと思う。私立大学はアウトソーシングが多いのでは。	Ａさん	目録のネットワーク	
言語Ⅳ	3-⑪	業務委託	私大図協や図書館間の協定や個人的なつてなどネットワークはあるものの、目録に関しては少ない。	Ａさん	目録のネットワーク	
言語Ⅳ	補足	業務委託	（どうやっていろんな目録をとるスキルを身につけたのか？）→NACSIS－CATをベースにした目録作成研修を受けているので、作業先がどこであってもNACSISの書誌を作ることは同じ。いろんな大学に行って特色のある資料に触れてスキルアップする。新人に対して教育を担当することもスキルアップになる。	Ｄさん	組織のスキル	
言語Ⅳ	補足	業務委託	その大学のローカルルールが強いところがあるが、本学はNACSISがベースになっていて、ローカルのみに限定することはない。いろんな資料があり、目録作成だけでなくレコード調整も担当するので幅広い技術が身につく。	Ｄさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	補足	業務委託	（派遣される大学はたくさんあるのか？）→そこへ行くところもあるが、社内へ資料を引き取ってやることもある。	Ｄさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	補足	業務委託	（このようなスペシャリストを派遣するという形態は一般的か？）→どこまで言語に対応するかという問題もあり、すべてに対応はできないが、和洋のものであったらできないことではない。	Ｃさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	補足	業務委託	大学の規模にもより、学内に作業場所を用意して派遣してやれるか、外へ運搬してやるかになる。	Ｄさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	補足	業務委託	業者さんのコントロールでいうと自社内でやるほうがいいこともあるが、レコード調整など現地でないとできないこともあると思う。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	補足	業務委託	目録だけでなく受入処理もあるし、学内でないと雑誌のチェックインなどもできない。	Ａさん	目録作成の体制	
言語Ⅳ	補足	業務委託	（送る時間がかかるか？）→送って戻す4週間の間に目録装備を行う。関東の大学などは購入して目録をとるのに2週間くらいでできるところもあるときいたことがある。委託によっては目録整理後に納品するなどいろいろなやり方がある。発注したら目録データと一緒に資料が納品されるようなやり方もある。	Ａさん	目録作成の体制	

テーマ	楽譜、録音資料(音楽）のオリジナル書誌作成のスキル
インタビュー先	私立大学C
日時	2015年10月22日　14：10～16：00
インタビュイー	Aさん（係員クラス）、Bさん（係員クラス）、Cさん（委託職員）
インタビュアー	南山、木下、松尾

調査名	質問紙番号	質問内容	回答	話し手	カテゴリ	
形態Ⅰ	1-①	目録担当者	委託は公募制。業者に依頼しているが、基本的に音大出身者が多い。年限は特にないため、10年以上の方も。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅰ	1-①	目録担当者	常勤はマネジメントの仕事を行っている。委託の人は目録の業務のみ行うため、ふだん利用者がどういった目線で資料を探しているのかそのあたりは知らないので、サービスとの橋渡しは職員の方で行っている。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅰ	1-①	目録担当者	非常勤は定年後の再雇用。マニュアルの作成などを担当していた。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅰ	1-①	目録担当者	資料は楽譜及び録音・映像資料(CD・DVD)がほとんどだが、一定数書籍（音楽に関するもの。和書がほとんど）もある。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅰ	2-②	遡及入力	遡及入力は終わっていない。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅰ	2-②	遡及入力	寄贈された楽譜とCDが段ボールで30箱程度（推定）ある。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅰ	2-②	遡及入力	部分的に予算をつけながら行っているが、現在のペースだと10年以上かかってしまうと思われる。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅰ	2-②	遡及入力	自分が就職した4年前から、委託はずっと同じ人数でやっていて、予算も同じように行っている。最近終わった遡及の大きいものはジャズ。ふだんこちらが収集するものとは違うので、ややこしかった。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅰ	2-③	遡及入力	遡及入力はカレントの合間に行っている。選書をするタイミングに左右されていて、選書会議が月に1度あり、そこで決まったものが入ってくるので、月や年の中で波がある。その開いた時間に遡及を行っている。そこの流れのコントロールがうまくいかないのが課題。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅰ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成	（ローカルで楽譜を登録するのはなぜか？）→明らかに楽譜であればレコード調整をするが、ぱっと見で書籍か楽譜かどっちか分からない、こちらから見ると楽譜と思うが、文字が多いから他館は書籍としていると思われるときは、こちらから楽譜じゃないかとは言いにくい。どこを基準として楽譜とするか書籍とするかという問題にもかかわってくるし、ＮＩＩに楽譜の定義はないので、調整を積極的にするのではなく、ローカルのみに楽譜として登録することがある。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成	楽譜とするか書籍とするか、基準が難しい。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成	音大生が暗黙の了解で楽譜と思っているものは、OPACで検索する場合、楽譜で絞り込むと検索できないので、こちらの基準のうちのひとつになっている。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅰ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成	（コーディングマニュアルに曖昧な部分がある、という回答への補足）視聴覚資料の目録を取るに当たってはタイトルフレームの定義とか、マニュアルに責任表示を補記するとか書いてあるが、実際の書誌を見るとTRフィールドに補記して書いてあるものが少ない。本当に補記するのかと疑問に思う。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	2-⑥	ローカルのみの書誌作成	意見が異なるときは職員側に最終的な判断がまかされる。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	2-⑦	書誌調整	書誌調整も委託の方が行っている。	Ａさん	書誌調整	
形態Ⅰ	2-⑦	書誌調整	委託の業務の勤務は年限がなく、10年20年の経験の人もいる。音楽資料については年月の蓄積がものをいう部分が多く、最初の1～2年は使い物にならず、早くて3年、5～6年はやっていかないとという状況。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	2-⑦	書誌調整	受付が多く、音大同士の調整も良くある。	Ａさん	書誌調整	

形態Ⅰ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	資料の特性上、解釈の違いの段階にまで至らない場合が多い。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	（レコード調整で苦労した点は？）→この資料はスコアなので、というときに、「スコアってなんですか？」と聞かれたりするときに説明が難しい。	Ｃさん	書誌調整	
形態Ⅰ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	楽器演奏のための教則本、ソルフェージュなど、文言が楽譜に挟まっていたり、文言のほうが多かったりすると、音楽図書館としては楽譜として扱いたいが、これだけ文言が多かったら楽譜として扱わない図書館もあり、折り合いをつけるのが難しい。なるべくそういう話をしないですむようにするため、ローカルのみで扱うことがある。	Ｃさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	相手が音大だったり、音楽を多く扱っている図書館なら話はしやすいが、それぞれの図書館の考え方があるのでぶつからないようにもっていくことが多い。	Ｃさん	書誌調整	
形態Ⅰ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	書誌調整は、週2日勤務のうち平均して1時間ずつ程度かかっている。毎回やるわけではないが、確認作業が多かったり、こちらが理解するために時間がかかる。直しました、という依頼もあるので、一応確認するので、その時間も含まれる。すぐに現物の確認できる体制でないため、確認に時間がかかる。	Ｃさん	書誌調整	
形態Ⅰ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	ほとんどの資料が閉架で、スタッフの手元に届くにも時間がかかり、2，3日かかるときがある。	Ｃさん	書誌調整	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	（楽譜にとって重要な要素は何か）→楽譜固有のフィールド。GMD、SMD、PHYSの書き方などが違っている。どういう楽器、どういう歌のために書かれているかという情報、歌であれば歌詞が何語、演奏手段などが重要。	Ｃさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	書籍と大きく違うのは書籍の場合はコンテンツをとらないが、楽譜は歌曲集の中にどういうタイトルの曲が入っているか、が重要になり、とりたいものになる。オーパス（作品番号）が含まれていたりするので、それがほしい。どんな曲が入っているのかわかりたいので、CWは手で入力している。	Ｃさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	MARCも使うが、ないものが多く、文法自体が違っていたり、いらないデータが入っていたりするので流用はするが、それを手直ししないで使うことはあまりない。手で入力していることが多い。定規で押さえながら点検をしていたりする。	Ｃさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	(NCに追加してほしいコードがあるか?)→演奏手段や楽器編成は、オーケストラや弦楽四重奏ならできるかもしれないが、そうでないものも多いので、コードは難しいかも。	Ｃさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	書籍に比べると、本のここにこう書いてあるという決まり、ここを見ればここに書いてあるというのがあるが、楽譜はそれもバラバラで、同じ出版社であっても、ぜんぜん違う装丁になっていて、同じ情報を得たいのに、これはこっちに書いてあって、これはここというようなことが多い。入れるコードが増えたらいいなというよりも、そっちのスキルのほうが必要で、結局、経験を積みましょうね、というほうが早い。	Ｃさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑧	ローカルのみの書誌記述	演奏手段の表は、もちろん決まったものもあるが、当館で持っている資料は、このくらい（Ａ４３枚分の資料）の演奏手段がある。これでも足りないくらい。これだけ作っているのはこれだけのレベルで要望があるということ。これは分類に反映されていて、利用者は楽器編成から探せるようになっている。この分類は館内で作られたもの。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	2-⑩	著者名典拠	著者名典拠は基本的に作成している。責任表示=作曲家がAL。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅰ	2-⑪	分類	録音資料については、独自分類を付与していない。たくさんの曲が入っていると、いろんな編成が入っており、録音資料については編成で探すということがそれほどない。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅰ	2-⑪	分類	書籍については、NDCをベースにして分類を付与している。音楽のレベルを詳細にしている。分類は教員と一緒に作ったというより、ふだんの利用者からの要望などを考慮して作られたもの。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅰ	2-⑭	書誌の構造	階層構造は特に問題ない。ＶＯＬ積みというものはあまりない。楽譜と楽譜の関連性にしても、シリーズはあるが、それほど階層が込み入ったものにならない。	Ａさん	NACSIS-CAT型書誌	
形態Ⅰ	2-⑭	書誌の構造	（図書として書誌が作成されていても、楽譜として別の書誌を作成してもよいのでは？）→いいかもしれないが分からない。音楽関係はそう思っていても、最終的には書籍のほうがいいかもしれない。音大図書館同士で話し合ってできる機会があればいいかも。	Ａさん	NACSIS-CAT型書誌	
形態Ⅰ	2-⑮	作成館の修正義務	こちらが持っている資料と作成した館が持っている資料が同じものかどうかは分からないので、書誌修正は、問い合わせをしたほうがいい。時間はかかるけど、参加館も多いので、スピードよりも確実性を求めた方がいいかも。	Ａさん	書誌調整	
形態Ⅰ	3-②	講習会	セルフラーニングは、常勤1名が受講した。講習会は自分は図書と雑誌、もう1人は雑誌を受けた。図書の講習会は委託職員1人受講。	Ａさん	研修・教育	

形態Ⅰ	3-②	講習会	クイズがあるので知識として学ぶ分には問題なく、職場で勉強できることはよい。	Ｂさん	研修・教育	
形態Ⅰ	3-②	講習会	実際に業務を行う上ではセルフラーニングだけでは不十分。誰かに聞かなくてはならない部分がある。	Ｂさん	組織のスキル	
形態Ⅰ	3-②	講習会	委託の人間が講習会を受けたが、講習会について、業務で扱う資料は特殊だが、NIIの登録のどこに気をつけるのかなど、スタンダードが分かるのは（スキル維持に）良いことである。	Ａさん	組織のスキル	
形態Ⅰ	3-④	スキル継承の手段	（スキルについて）現場で身に着けるもの。音大では独自の作成マニュアルもある。	Ａさん	組織のスキル	
形態Ⅰ	3-⑤	今後身につけたい書誌作成スキル	キリル文字を読む能力を身に着けたい。楽譜はドイツ、フランス、キリルは入ってきてしまうので、内容を確認する必要があるので、語学スキルは身につけたい。序文を読むために必要。	Ａさん	言語のスキル	
形態Ⅰ	3-⑥	リポジトリのデータ	リポジトリ自体をやっていないし、今後の予定も具体的にはない。学校の特色として、音楽学以外は実技中心で、卒論もない代わりに実技試験がある。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	クラシックとジャズなどの内容を見て、書誌作成段階で資料の特徴を把握しておく必要がある。聴いて判断する必要がある場合もあり、時間がかかる。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	大量に寄贈してくださった方が所蔵していたのが主にジャズ系なので、他のクラシックならALが作られているが、ジャスは演奏者や作曲者が別だったりするので大変だった。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	ローカルにノートのフィールドがあって、ジャズはそこに記述している。クラシックは入れていない。NACSIS-CATのNOTEや件名には入れていない。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	付属資料として楽譜にCDがついているときには、貸出条件なども考慮して楽譜として扱うことが多い。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	楽譜の同定は、ISMN（International Standard Music Number）やプレート番号で判断。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑨	ORG作成の難しい点	プレート番号の違いは中身の違いとなる。プレート番号のほうが信頼性が高いため、書誌を作るときには必ず入れる（OTHNフィールドを利用）。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	3-⑩	作成後の点検	委託の人たち同士で作成した書誌の点検を行っている。	Ａさん	組織のスキル	
形態Ⅰ	3-⑪	他機関との連携	書誌作成のために他の音大と連携などは行っていない。	Ａさん	目録のネットワーク	
形態Ⅰ	4-①	楽譜、録音資料（音楽）の分類	楽譜と録音資料は閉架しており、楽譜等は大きさによって配架している。	Ａさん	分類	
形態Ⅰ	4-①	楽譜、録音資料（音楽）の分類	大きさを中心の基準にした独自の請求記号を付与している。ポケットサイズから大判のサイズまでいろいろあり、同じ大きさのものが同じ棚に入るようにしている。	Ａさん	分類	
形態Ⅰ	4-⑤	楽譜、録音資料（音楽）のデータベース	今のところ音楽関係独自のデータベースは特にないし、携わっていない。演奏手段なども本学の目線で作ったものなので、他の大学さんで通用するかどうかは分からない。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅰ	4-③	楽譜、録音資料（音楽）の目録作成のスキル	委託の方をお願いするときの条件は、楽譜が読めて理解できること。音楽の知識があって、目録を身につけてもらう。音楽資料の特殊なあり方を理解してもらうのは難しいため、目録の経験値より、音楽の経験値のある人のほうが伸びやすいと考えている。もちろん音大出身でなかったり、音楽の経験がない方も作業者にはいる。毎日のように他のスタッフに聞いてスキルを身につけている。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅰ	4-③	楽譜、録音資料（音楽）の目録作成のスキル	リーダーとサブリーダーがいて、業務の内容を理解している。	Ａさん	組織のスキル	
形態Ⅰ	4-③	楽譜、録音資料（音楽）の目録作成のスキル	特殊な資料の研修は行っていないが、CDの作成は難しい。中を聞いて確かめないと分からないこともある。難しいというより時間がかかる。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅰ	4-③	楽譜、録音資料（音楽）の目録作成のスキル	目録担当者が多い理由としては、外国の代理店経由のオーダーが多く、国内で流通していないものを入力することが多いことが考えられる。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅰ	4-③	楽譜、録音資料（音楽）の目録作成のスキル	NACSIS-CATの統一書名典拠は使っていない。カスタマイズしていて、ローカルにフィールドを設けて、音楽著作の曲名で検索できる仕組みをつくっている。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅰ	4-③	楽譜、録音資料（音楽）の目録作成のスキル	音楽著作の典拠フィールドは、10年以上前から運用している。OPACの仕組みを検討して作ってもらった。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅰ	補足	目録業務外の担当	選書（楽譜含む）は、図書館の人間が行っている。基本的には音楽に携わっていた者が職員として採用されている。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅰ	補足	目録業務外の担当	要望、購入依頼があったものを運営会議にかけ、選定されたものを海外の代理店にオーダーしているためさまざまな言語がある。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅰ	4-⑩	楽譜、録音資料（音楽）の受入	現代作曲家のものも積極的に集めているため、出版年が新しいものも多い。	Ａさん	目録対象資料	

形態Ⅰ	4-⑨	自館での作成が難しい資料	読めない言語に対しては、現場の努力で処理できている。委託の方にロシア語スキルのある人、その他フランスやドイツなど得意言語を持つ人が集まっている。	Aさん	言語のスキル	
形態Ⅰ	4-⑨	自館での作成が難しい資料	楽譜などは何ヶ国語かの表記（英語ドイツ語など併記）があるものが多い。大体書かれていることが決まっているので、慣れでできることも多い。	Aさん	言語のスキル	

テーマ	図書以外の形態の資料のオリジナル書誌作成のスキル
インタビュー先	大学共同利用機関
日時	2015年10月30日　10：00～11：45
インタビュイー	Aさん（係長クラス）、Bさん（非常勤職員）、Cさん（非常勤職員）
インタビュアー	南山、木下、松尾

調査名	質問紙番号	質問内容	回答	話し手	カテゴリ	メモ
形態Ⅱ	1ー①	目録担当者	委託は期間限定の派遣職員。中国書、韓国書の入力担当。専門の業者に「中国語、韓国語ができる人」という条件で派遣してもらった。	Ａさん	言語のスキル	
形態Ⅱ	1ー①	目録担当者	非常勤の人数は、年によって増減はあるが、昨年度については7名。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	1-④	年間の整理冊数	例年は10,000件弱の目録作成。昨年度は5,000枚ほどレコードが寄贈されたこともあり、外部委託の力も借りて15,000件程度作成している。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅱ	1-⑤	目録業務外の担当	常勤の仕事は書誌のチェックが中心。自分で目録を取る場合もある。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	1-⑤	目録業務外の担当	一般公開の展示の準備など課全体の仕事をやる場合はあるが、基本的には目録のみ。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	2-①	遡及入力	遡及入力の対象は、組織が立ち上がったときからない。	Ａさん	目録対象資料	
形態Ⅱ	2-⑤	ローカルのみの書誌作成	基本的に公開していく方針で作成している。大学共同利用機関であるため、組織としても他機関に利用してもらいたい。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	2-⑥	ローカルのみの書誌資料	他機関所蔵資料を複写・製本した資料、博士論文（所属の院生分）		目録対象資料	質問紙に記述回答
形態Ⅱ	2-⑦	書誌調整	受付は常勤職員が窓口となり、適宜非常勤職員に振り分けている。	Ａさん	書誌調整	
形態Ⅱ	2-⑦	書誌調整	依頼は非常勤職員も行っている。	Ａさん	書誌調整	
形態Ⅱ	2-⑦	書誌調整	調整の対象はDVDが多く、それ以外の特殊資料はほとんどない。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	6）目録のルールが細かすぎる→細かすぎるというよりも曖昧な部分がある		目録スキル（記述）	質問紙に記述回答
形態Ⅱ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	（コーディングマニュアルに曖昧な部分がある、という回答への補足）視聴覚資料の目録を取るに当たってはタイトルフレームの定義とか、マニュアルに責任表示を補記するとか書いてあるが、実際の書誌を見るとTRフィールドに補記して書いてあるものが少ない。本当に補記するのかと疑問に思う。	Cさん	特殊資料のスキル（形式）	注目点：コーディングマニュアルと実態に齟齬があるか
形態Ⅱ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	作成館の意図も考えられるし、こちらの考えもある。どちらが正解かというのはマニュアルのルールだけではでてこない。	Ａさん	目録スキル（記述）	
形態Ⅱ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	独自マニュアルを持っており、新規作成のときはこのフィールドは入力するとか、他館作成の書誌はこの場合は修正に入るが、この場合は修正に入らないなどを具体的に決めている。それぞれのフィールドについて細かく決めている。	Cさん	目録スキル（記述）	注目点：独自マニュアル作成 （注）独自マニュアルは、コーディングマニュアルを補足するもの。
形態Ⅱ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	著者名典拠についても、新規作成するときと他館作成書誌の修正に関して決めている。	Cさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅱ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	基本的にはコーディングマニュアルの入力レベルと齟齬がないようにしている。	Ａさん	目録スキル（記述）	
形態Ⅱ	2-⑧	書誌調整依頼時の問題点	（独自マニュアルは）代々引き継いで作成されている。問題があればそのつど検討して修正していくというかたちにしている。	Cさん	組織のスキル	

形態Ⅱ	2-⑨	書誌調整受付時の問題点	発見館修正可であったり他館が修正したものにも書誌調整が来ることはあるが、雑誌の書誌のようにNIIがメンテナンスしてくれるのでなければ、作成館に質問が来ることはある程度仕方がない。	Ａさん	書誌調整	
形態Ⅱ	2-⑩	著者名典拠	資料以上のことを調べることはしない。情報が不十分であったら作らない。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅱ	2-⑩	著者名典拠	昨年度整理したレコードについては、寄贈された時点でジャケットがなかった。LPとSPのうち、SPの方はほぼジャケットがなかったので、ほぼリンクしていないし、新規作成は１件も行っていない。必要な情報が資料があれば作成している。そこでまた別の参考資料をあたるということはしていない。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅱ	2-⑪	件名・分類	絵葉書や地図は地名を入れるようにしている。浮世絵などは代々件名を入れるようにしている。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅱ	2-⑪	件名・分類	件名は図書などについては、MARCになければ入れない。レコードやDVDにはそもそもつけていない。	Ｃさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅱ	2-⑪	件名・分類	（浮世絵にはどういう件名を入れているのか？）→浮世絵には「浮世絵」という件名を入れている。春画は［春画」というSHがないので、「性風俗」と入れている。	Ｂさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅱ	2-⑪	件名・分類	絵葉書は請求記号をつけていないので、件名でたどり着けるようにしている。	Ｂさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅱ	2-⑪	件名・分類	2015年までは全件つけていたが、処理速度を上げ滞貨を減らすために年度途中から全件付与を中止した。そのときでも件名をつけるのは自館作成のもののみだったので、件名をつけることには疑問があった。	Ａさん	目録スキル（典拠）	
形態Ⅱ	2-⑭	書誌の構造	（NACSIS-CAT構造の問題点として）中位の書誌に書きたい情報が書けなくて、子書誌に書かないといけない。子書誌が多いとすべてに中位の書誌の情報を書かないといけないので、重複した作業のような気がする。	Ａさん	NACSIS-CAT型書誌	
形態Ⅱ	2-⑭	書誌の構造	中位の書誌もPTBLにリンクし、子書誌もリンクする形（3階層）でも良いのではないか。	Ａさん	NACSIS-CAT型書誌	改善提案：中位の書誌を実体化してリンク関係を持つ方が合理的では
形態Ⅱ	2-⑭	書誌の構造	ＶＯＬ積み構造の問題→個別資料のページ数が書誌に記述されないこと、所蔵していない巻号次も書誌に現れることは問題がある。		NACSIS-CAT型書誌	質問紙に記述回答
形態Ⅱ	2-⑭	書誌の構造	NIIで基本的にどういう方向で作りたいと思っているのか知りたい。今のような書誌階層を続けていくなら、3階層の書誌もあっていいかと思うが、物理的に１つの本に対して1個ずつの書誌を作っていくなら、別に階層を考えていかなくてはならないと思う。	Ｂさん	NACSIS-CAT型書誌	
形態Ⅱ	2-⑭	書誌の構造	出版物理単位で作っていくなら、書誌調整の件数が減ってくるのではと思う。	Ｂさん	NACSIS-CAT型書誌	
形態Ⅱ	2-⑭	書誌の構造	書誌階層を維持しない場合、使いやすくなるような構造を考えなければならないが、維持しなかった場合があまりイメージできない。	Ａさん	NACSIS-CAT型書誌	
形態Ⅱ	2-⑭	書誌の構造	（出版物理単位にした場合）シリーズの名前だけ同じで、全く違うシリーズというような図書を扱う際はどうするのか、そういう場合は疑問。	Ａさん	目録スキル（記述）	
形態Ⅱ	2-⑦	書誌調整	（特殊資料に対する書誌調整は多いか？）→特殊資料に対する調整はあまりない。視聴覚資料で言えば依頼も受付もDVDについてが多い。絵葉書、浮世絵に関してはほとんどない。旅行案内のパンフレットはたまに調整が来る。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	2-⑭	書誌の構造	（形態ごとに専用のフィールドのセットを作ったほうが良いか？）→現在はないが、あればその方が良いかもしれない。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	（浮世絵の書誌について）印の種類がいくつかあり、そこから出版事項や出版年をとったりする。印そのものの情報もNOTEに書くことがある。浮世絵であれば印を書くフィールドがあればそれもよい。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	版元印、改印、落款印、この3つは必ず調べて毎回書くので、あれば便利。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	注記（NOTE）をどう書くかはマニュアル化されていない。担当者が限られているのでマニュアルにしてこなかった。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容・形式）	
形態Ⅱ	3-④	スキルの継承	独自マニュアルは、誰が来ても分かるような一般的なものについてのみ作成しており、担当者が限られる特殊資料は現在のところマニュアルを作成していない。	Ｂさん	組織のスキル	
形態Ⅱ	3-④	スキルの継承	非常勤職員の人は期限がある人とない人がいるため、次に同じようなスキルのある人を見つけにくく、1から教える時間も時間がかかるので、特殊な資料は期限のない人にお願いしている。	Ａさん	組織のスキル	
形態Ⅱ	3-④	スキルの継承	特殊資料の扱いは、江戸時代の版本、宗田文庫などに和装本が入っていて、その整理で経験を積んだ。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	

形態Ⅱ	2-⑮	作成館の修正義務	NIIにメンテナンス集約ができると良いが、やる余裕はないと思う。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	2-⑯	共同目録体制の維持	（ILLを円滑に運用する他の方法が見つかれば維持しなくても良い、という回答への補足として）方法が見つかるとは思えないので、維持していくほかないように思っている。より使いやすくしていくほうが現実的か。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	3-④	スキルの継承	（コーディングマニュアルに求めることとして）個人の書誌作成スキルを上げることで、マニュアルが曖昧ではなかったことに気がつくことができるようになるならば、それに越したことはない。	Ａさん	目録スキル（記述）	
形態Ⅱ	3-④	スキルの継承	コーディングマニュアルに記載がない、新しい形態の資料（視聴覚資料を例に）の目録を作成する際、古い視聴覚資料の作り方に当てはめて作成してよいのか、という疑問。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	3-⑤	今後身につけたいスキル	今後身につけたいスキルは視聴覚資料。今後も積極的に集めていくであろう資料なので、きちんとスキルを身につけておきたい。選書は教員。図書館として方針があって、海外で出版された日本に関する資料を網羅的に収集していくため、DVDなどがたくさん来る。今後も来るであろうと思われる。教員から送られているリストがあって、基本的には書店から購入している。意外と入手できる。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	3-⑤	今後身につけたいスキル	（コーディングマニュアルで不足しているところは？）書誌作成スキルを上げることによって、コーディングマニュアルの書き方が曖昧でなかったと気がつくのであればそれにこしたことはない。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	3-⑤	今後身につけたいスキル	（スキルを上げるには？）NIIの方にここはこうと教えてもらうのがいいのでは。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	3-⑤	今後身につけたいスキル	（NIIにもスキルのある人がいないのでは？）→曖昧なところはNIIに質問したりもするが、回答がすぐ来るわけではないので、こちらは処理を進めていかなければならないので、NIIに質問せずにできるようになりたい。回答としてはコーディングマニュアルをそのまま読めばいいのだなという回答だった。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	3-⑧	特殊な資料の扱い	ハードディスクに雑誌の切り抜きがたくさん入ったものを教員がたくさん収集したものが来た。迷ったがNACSIS-CATに登録も行った。収録物が他の機関で持ってないものばかりだったので、利用価値があると思い、登録した。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	3-⑧	特殊な資料の扱い	（新しい形態の資料について）リポジトリで公開するという選択もあるが、自機関のリポジトリは整理されていないため、今のところそういう受け口はない。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	3-⑥	CAT以外のデータベース	資料の選定は教員が行っており、視聴覚資料は今後積極的に集めていく資料になっている。図書館としては、海外で出版された日本に関する資料を網羅的に収集し整理する。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	3-⑥	CAT以外のデータベース	データベースと図書館OPACは一部連動しているが、図書館に寄贈されたものだからOPACに載せている。データベースは教員の判断で作られるもの。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	3-⑥	CAT以外のデータベース	データベース側に教員が作成した情報が乗るため、それを参考にOPACのデータを作ることがあるし、逆にOPACを参考にする場合もあるし、全く独自で作成することもある。基本的には別々で作っている。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	3-⑥	CAT以外のデータベース	（システム的な連携は？）→OPACの画面から画像にリンクする、といった連携例がある。また、データベースの一部にはOPACデータに行くものもある。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	どこから書誌情報を取ればよいか分からない。浮世絵もいろんなパターンがあって、印があるものないもの、春画であれば印がないのはほとんどで、絵師の特定ができなくて、春画だけ変な名前で描いていたりする。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	研究者の研究ありきで、それに従う。特に春画は先生に伺うという姿勢を保ってきた。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	浮世絵に限らず、タイトルがないものに対してタイトルをつけるのが大変。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	（タイトルは）基本的には担当の教員がつける。あるいは他館を参考にする。浮世絵は早稲田が参考になる	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	（分からない場合どうするか？）→研究者に問い合わせる。図書館員が理解できなくても、その点は研究者に従う。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	春画は専門家がおり、聞くことができる。春画のデータベースが先に出来ていることも多い。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	研究者が（目録作成に対して）積極的なので助かっている。	Ｂさん	目録作成の体制	

形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	春画であれば数年前にできた参考資料がある。それまではほとんど教員に聞いていた	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	版元印など専門の中や研究者間では当然の理解になっていることなど、公開されていることや、研究の世界ではちゃんとしたツールがあるものなどは、それを生かしたい。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	DVDは情報源が取りにくい。具体的には、タイトルフレームがどの1コマか分かりにくい場合がある。	Ｃさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	大量に寄贈された浪曲のSPレコードは聴いていない。音声というのは明らかなので、レーベルから目録をとった。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑩	オリジナル書誌の点検	特殊な資料の目録は、担当者3名（常勤も含む）で点検している。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容・形式）	
形態Ⅱ	3-⑪	目録ネットワーク	特殊な資料の目録作成について、情報共有は考えたことがない。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容・形式）	
形態Ⅱ	4－①	図書以外の形態の資料	戦時中の外地関係、妖怪、春画・艶本、映画、アニメ、浪曲、芸能など		特殊資料のスキル（内容・形式）	質問紙に記述回答
形態Ⅱ	4－①	図書以外の形態の資料	浮世絵検索というサイトがあり海外の詳しい人が作っていて、それは結構網羅的、海外の有名なミュージアムや、早稲田や立命館などの情報も出てくるので参考にしている。直接のやりとりをすることはない。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	4－①	図書以外の形態の資料	映画、アニメに関しては海外から広く集めている。大衆文化は積極的に集めるという方針	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	4－①	図書以外の形態の資料	（録音資料の委託、仕様書の作成に困難はなかったか？）→ジャケットがないので、逆に目録を取る上で見るべき場所が少なく迷わなかった。	Ａさん	特殊資料のスキル（形式）	
形態Ⅱ	4-⑤	図書以外の形態資料のスキル	（スキルを身につけるには？）→現場でモノにあたって、つまづいたら、担当者が集まって相談している。図書以外のスキルのある人というより、図書以外の目録担当者が4人集まっているというイメージ。	Ａさん	組織のスキル	
形態Ⅱ	4-⑤	図書以外の形態資料のスキル	（形態のスキルについてどう考えるか）→何をもってスキルがあるというか難しい。浮世絵でいえば、情報がどこに載っていて、何を見ればよいか分かっていること。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	（長いことやっていると、この絵師は誰かなどわかるか？　タイトルをつけることができるか？）→見ていると雰囲気で何派というのは分かってくるが、専門家ではないので、先生に確認している。ある程度研究し尽くされているものは書物になり、公開されているものがあるので、それにたどり着く時間に対しての周りの理解があるからやりやすかった。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	4-⑤	図書以外の形態資料のスキル	他の資料と違い、スピードを上げて数をこなして、といったやり方はできない。時間に対しての理解、先生から回答が返ってくるまでの時間などをクリアしたら、どんなものでも名前はつけられると思う。時々センスの問題と言われることはある。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	（絵葉書も自分でタイトルをつけるか？）→絵葉書は最近は外地のものが多く、地名をつけるのが基本。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	3-⑨	ORG作成の難しい点	絵葉書１枚1枚をとっているわけではなく、絵葉書帳というスクラップブックの単位でつくっている。外袋という絵葉書が何枚か入っている袋にタイトルがあり、それを使ったりする。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	4-⑤	図書以外の形態資料のスキル	（版本や浮世絵はある程度マニュアル化できるか）→専門的なことは抜きにして、文字が書いてあったら誰でも目録を取れるし、マニュアル化も可能。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	注目点：専門的知識がなくても浮世絵などの資料の目録は取れる。
形態Ⅱ	4-⑤	図書以外の形態資料のスキル	（図書館で書誌を作る場合）書物が持っている専門的なものがばっさり抜けるとは思う。専門化の意見は無視することになるので。そのように考えて目録をとってきたので、何に対して専門的です、とはいえない。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	注目点：ただし専門的な内容が抜け落ちる可能性
形態Ⅱ	4-⑤	図書以外の形態資料のスキル	国会図書館の和装本の扱いというのがそうで、事務的に誰がとっても良いようにしている考え。それが（特殊資料の）目録をとる作業にあたっての考え方のきっかけ、ヒントになっている。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	
形態Ⅱ	4-⑧	図書以外の形態資料の難しい点	特殊言語（アラビア語、タイ語など）の資料（図書がほとんど）は担当者がいないので、外部業者にお願いしている。	Ａさん	言語のスキル	

形態Ⅱ	4-⑧	図書以外の形態資料の難しい点	（アラビア語やタイ語で視聴覚資料だったりするか？）→視聴覚資料では特殊な言葉はそれほどない。	Ａさん	言語のスキル	
形態Ⅱ	4-⑧	図書以外の形態資料の難しい点	作成時に他の書誌を流用することはあまりない。	Ａさん	目録スキル（記述）	
形態Ⅱ	2-⑯	共同目録体制の維持	（共同分担のメリットは？）→独自の資料も多いが一般の図書も沢山あるため、書誌を作っているのは15～20%くらいのはずで、共同分担目録の恩恵にはあずかっている。昨年度は浪曲レコードが多かったが、それは例外的なもの。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	3-⑪	目録ネットワーク	（目録の地域連携はあるか）→組織間としてはない。自分は大学から出向しているので、元の大学の目録担当とのやりとりはある。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	3-⑪	目録ネットワーク	現在の常勤は出向者。目録係は2年前にできた（それまでは受入・目録係）	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	補足	採用時のスキル	（非常勤職員の採用基準は？）→選考基準としては司書資格とNC入力経験がある。	Ａさん	目録作成の体制	
形態Ⅱ	補足	CAT以外のデータベース	図書館の目録はあくまで入り口。専門的な情報は専門のデータベースに案内する。	Ｂさん	特殊資料のスキル（内容）	録音終了後
形態Ⅱ	補足	図書以外の形態資料の難しい点	（どこまでNOTEに細かく記述するか、という質問に対して）担当者間で話し合って決めている。手探り状態のため、マニュアルにはまだ載せていない。	Ａさん	特殊資料のスキル（内容・形式）	録音終了後
形態Ⅱ	補足	図書以外の形態資料の難しい点	視聴覚資料は一から作ることが多い。JPMARCは目録の取り方が違うため、あまり参考にならない。	Ｃさん	特殊資料のスキル（形式）	録音終了後